

游雅蘭さんの作品—私はどのようにイメージを受け取るのか

游雅蘭さんとは、もう5年ほど会っていないのではないだろうか。2011年だったと思う。地震の話をした。台湾での大きな地震のこと、日本で起きたばかりの地震。私は子供を授かって、その子の名前の話などをした。彼女は、丁寧に繊細に注意深く、私が台北芸大で行ったワークショップの面倒をみてくれていた。暑い夏の日、大学の中のいろいろな場所で拓本を採って、樹脂の写真版に移行させていくワークショップだった。彼女の作品が記憶、時間、自然、記録された画像の階層、積層からなっているとすると、私の記憶は游雅蘭さんの作品になるのだろうか。この問いは随分とナンセンスかもしれない。

「ストップモーションの断片だけではなく、積み重ねた時間から生まれた風景」そして、風景には人物が潜んでいる。私たちは絵画を読むために、決め事が必要だ。東洋の絵画であれば、私は深い山に分け入り隠遁し自然と対話しながら、人間の芸術的な営みを反復する私を訪ね同化する。これは絵画だけに限らず、演劇や映画でも様々な決め事を感じ、知らなければ表現された世界に入り込むことは困難だ。しかし私たち現代の表現者は、この自明のルールを改めて思考せざるを得ない。そしてルールそのものの再構築を始める。私たちは何処からイメージを写し取ってくるのか？物語が現れる可能性は？

鑑賞者が理解し解読するルールは、シンプルであるほど良い。游雅蘭さんの絵画の仕組みは、個人的なレベルから始められているようだ。風景と人物という極めて伝統的な絵画の題材と不可思議な光の表象は、個人的な経験からやってくる。彼女はこの経験、記憶や感情の襞を語ろうとした時、絵画の言葉を印刷の方法で伝える。

絵画イメージは、描き方のみならず物語の仕組みも示し、構図上のモチーフの配置は描き方とも連動している。この描くことが木版画の彫刻による製版と印刷であるなら、そのプロセスは絵画のイメージそのものを変えるだろう。しかし、彼女の作品イメージはプロセスの解読を目的とはしていないようだ。木版画やその固有の技法

は、強い形式を作り出す。作家はこのことに自覚的だろう。そこから逃れるための葛藤は作品の構図構成随所に見られる。鑑賞者が作品に複雑さを読み取るとすれば、この作家の冒険の結果なのだ。画面に現れる不可思議な光の表象は、明解な位置を持って現れているだろう。そこに私たちは踏み入ることができる。作家は作画のプロセスに様々な隠喩を滑り込ませ、作品を読めるように仕上げているのだ。同じ表情を一つとして持たない版木は自然を表し、記憶や受けとった光景の重なりは、積層される印刷と対応していく。作家の記憶と感動は、印刷という形式をとった絵画の方法、イメージに置き換えられて作品化するのだ。

作家は自分の感動を作品に写し、表現する。当然ながら私のナンセンスな問いはナンセンスなままだ。それでも作品に表現された個人の感動は、私を感動させる。それは作品と対峙した者の記憶に写し撮られ、更新していくだろう。游雅蘭さんの作品には、柔らかな移行の力がある。

2016／5／19

三井田盛一郎

画家・版画家・東京藝術大学准教授

我對游雅蘭小姐作品的印象

與游雅蘭小姐應該有5年左右沒有見面了吧？是2011年的事了，我們聊了地震，在台灣發生的大地震跟最近在日本發生的地震。當時我的小孩剛出生，我們也聊了有關小孩名字之類的事。她非常仔細、細心、專注的協助我在台北藝術大學舉辦的工作坊。工作坊在炎熱的夏天舉行，於校內的各種地方進行拓本採集，並且製作成感光樹脂版。如果她的作品是以記憶、時間、自然、所記錄的圖像為階層、元素而成的話，那麼我的記憶是否也在游雅蘭小姐的作品之中呢？又或許這個問題早已離題了！

「不僅是停格的片段，而是每個時刻的累積、延續而產生的風景。」以及潛藏於風景裡的人物。我們在觀看作品的時候，是依循路徑的。倘若是東洋畫作，我會進入深山隱居、一邊與大自然對話，一邊探詢浸身於在人類藝術發展中的自我。這不僅限於視覺作品，戲劇或電影如出一轍，存在著路徑。若無從得知的話，無法進入創作者的世界。但是像我們現代的創作者，不得不再次思考這理所當然的路徑，然後開始再次構築路徑。我們是從何處取得印象的呢？從中再現畫面表述的可能性呢？

觀賞者能理解並解讀的路徑，最好是簡單明瞭。游雅蘭小姐作品的布局構造，應是從自身的層級開始的。以風景與人物如此傳統的創作命題與不可思議的光點表現，是從個人的經驗而來的。在她欲表達這個經驗、記憶與感情的同時，也將作品的語言以版畫的方式傳達出來。

作品的印象，不只會顯示描繪方式、也會顯示出表述的樣貌，構圖的草稿布局也跟描繪方式脈脈相連。這樣的描繪方式若透過木版畫的雕刻製版與印製，也會轉化成作品所呈現的面貌，但是，她的作品給人的印象應該不是以解讀過程為目的。木版畫或那些固有的技法會形成強烈的形式，創作者自身應該對這些事有所自覺。因此在作品的構圖與構成中處處可看見那種為了跳脫形式而產生的糾葛。若觀賞者對於作品感覺到複雜性的話，這正是創作者冒險後的結果。

在畫面上所出現的不可思議的光線的表象、透過明確的布局，引領我們進入光的視界。創作者是在創作的過程中加入各種的隱喻，透過木板存有的多樣自然風貌，將記憶或是層積的光景相應到層層疊印之中。創作者藉由版印的形式，把記憶與感動轉換成畫面與印象所交織而成作品的樣貌。

作者將自身的感動描繪、表現在作品中。當然我那離題的思考迴路一樣還在。但

是表現在作品中的那份自身的感動，卻感動了我。那份感動會轉移到面對作品時的人的記憶中繼續下去。游雅蘭小姐的作品，有著輕柔的移轉的力量。

2016／5／19

三井田盛一郎

畫家・版畫家・東京藝術大學副教授